

情報処理基礎講座

『ネットワークとシステム開発の基礎 第2版』

正誤情報・補足情報

本書において編集上の誤りがありましたので、お詫びして下記のとおり訂正させていただきます。
また、補足情報を併せて掲載させていただきます。

対象版刷【第1刷／第2刷】共通

該当箇所			誤 or 変更前（赤字）	正 or 変更後（青字）																					
p.11	17～18 行目		SQL（Standard Query Language）	SQL（Structured Query Language）																					
p.16	14 行目		この同音異義語を～	この異音同義語を～																					
p.17	15 行目		実体と属性、属性型は関係表の～	実体と属性、属性値は関係表の～																					
p.18	6 行目		上図では、山田という実体型が～	下図では、山田という実体型が～																					
p.22	6 行目		主キーを組わせて～	主キーを組み合わせて～																					
p.33	囲み枠 左下テーブル中		氏名※	氏名																					
p.50	囲み枠 CREATE VIEW 文の FROM 句中		FROM GAKUSEI_TABLE，～	FROM GAKUSEI_TBL，～																					
p.51	11 行目		(3) 権限定義	(4) 権限定義																					
p.52	5 行目		(4) 表・ビューの破棄	(5) 表・ビューの破棄																					
p.57	囲み枠	【 】内	～学生番号と氏名を取り出す】	～学生番号、氏名、国語を取り出す】																					
		SEKECT 句	氏名 FROM 成績表 ～	氏名 国語 FROM 成績表 ～																					
		下表	<table><tr><td>学生番号</td><td>氏名</td><td rowspan="4">国語 抜け</td></tr><tr><td>11003</td><td>中村 花子</td></tr><tr><td>11002</td><td>田中 次郎</td></tr><tr><td>11001</td><td>山田 太郎</td></tr></table>	学生番号	氏名	国語 抜け	11003	中村 花子	11002	田中 次郎	11001	山田 太郎	<table><tr><td>学生番号</td><td>氏名</td><td>国語</td></tr><tr><td>11003</td><td>中村 花子</td><td>92</td></tr><tr><td>11002</td><td>田中 次郎</td><td>77</td></tr><tr><td>11001</td><td>山田 太郎</td><td>65</td></tr></table>	学生番号	氏名	国語	11003	中村 花子	92	11002	田中 次郎	77	11001	山田 太郎	65
			学生番号	氏名	国語 抜け																				
11003	中村 花子																								
11002	田中 次郎																								
11001	山田 太郎																								
学生番号	氏名	国語																							
11003	中村 花子	92																							
11002	田中 次郎	77																							
11001	山田 太郎	65																							
p.59	7 行目		GROUP BY により、句により～	GROUP BY 句により～																					
	囲み枠 1 つ目の【 】内		【成績表のクラスの学生人数を取り出す】	【成績表のクラスごとの学生数を取り出す】																					
p.64	下の 囲み枠	各・ 学生番号	12001 12002 12003 12004 12005	11001 11002 11003 11004 11005																					
p.65	囲み枠																								
	2～4 行目		副問い合わせは主問い合わせの結果に ～ 副問い合わせである。 それに対し、	(←左記を削除)																					
p.70	1 行目		(c) 独立性(Isoration)	(c) 独立性(Isolation)																					
p.77	全体		占有ロック	専有ロック(占有ロック)																					
	4 行目		占有モード	専有モード (占有モード)																					
p.95	5～6 行目		データディクショナリとして～	データディクショナリとして～																					
p.104	10 行目		NIC : Network Inteface Card	NIC : Network Interface Card																					
p.114	2 行目		A 者と B 社を繋ぐ道路に分け、	A 社と B 社を繋ぐ道路に分け、																					

該当箇所		誤 or 変更前 (赤字)	正 or 変更後 (青字)
p.119	下 5 行目	末尾に 負荷 される場合は～	末尾に 付加 される場合は～
p.120	下 2～1 行目	他ノード ト ン接続が切れない～	他ノード と の接続が切れない～
p.122	8 行目	誤り制御の 4 つ制御に大別する～	誤り制御の 4 つの制御に大別する～
p.127	4 行目	(Media Access Contorol : MAC)	(Media Access Control : MAC)
p.135	7行目	イーサネットフッタ は4バイトで、	イーサネットフッタ は4バイトで、
	下 6 行目	FCS (Frame Check Swquence)	FCS (Frame Check Sequence)
	下 4 行目	最少 48 バイト、	最小 46 バイト、
	下 2 行目	(ペイロードが 48 バイト未満)	(ペイロードが 46 バイト未満)
p.136	囲み枠 表枠下の 注記	変換方式	DSSS/CCK
			OFDM
			DSS…
			CCK…
p.137	最下行	16 進数 12 桁で 4 桁 (16 ビット) ～	16 進数 12 桁で 2 桁 (8 ビット) ～
p.146	下 5 行目	の全員あてに 全員 ～	の全員あてに 送信 ～
p.148	下 3 行目	～を示すアドレス、 で エニーキャストアドレスを～	～を示すアドレス で 、エニーキャストアドレスを～
p.151	下 3 行目	(先頭 8 ビットが 0111 0000) の～	(先頭 8 ビットが 0111 1111) の～
p.153	4 行目	IPアドレスの論理積 と ることに～	IPアドレスの論理積 を とることに～
p.165	下 5 行目	クライアントが 2 回目の要求 する 際に、	クライアントが 2 回目の要求 を する際に、
p.167	2 行目	代理しないなどの セキリリ ティを～	代理しないなどの セキュリ ティを～
p.181	囲み枠 ユーザ宅 右下	音声信号と デジタル 信号を分離	音声信号と ディジタル 信号を分離
p.193	下 11 行目	～と鍵により暗号文 する 処理	～と鍵により暗号文 にする 処理
p.195	【AES】 説明文 1～2 行目	DESの 後 (Advanced Encryption Standard) 継 として、～採用された暗号方式が AES である。	DESの 後継 として、～採用された暗号方式が AES (Advanced Encryption Standard) である。
p.206	8 行目	(Secure Sokcet Layer)を使用した	(Secure Socet Layer)を使用した
p.211	(オ) 見出し	(オ) サービス拒否攻撃	(オ) サービス拒否攻撃 (サービス の妨害)
p.219	(2) (3) 項番	(2) 情報セキュリティ対策基準 (3) 情報セキュリティ実施手順と規程	(3) 情報セキュリティ対策基準 (4) 情報セキュリティ実施手順と規程
p.245	(イ) 説明 3 行目	が多く、計画性に欠ける ため どのソフトウェアが～	が多く、計画性に欠ける ため 、どのソフトウェアが～
p.248	4～5 行目	「13. 1. 3 」で説明する。	「13. 1. 2 」で説明する。
p.262	下 9 行目	・ユーザが 思いつかなかった 、	・ユーザが 思いつかなかった 、
p.264	下 6 行目	3) 外部 (源泉)	3) 外部 (源泉・吸収)
p.295	下 12 行目	(Proccess Oriented Approach: POA)	(Process Oriented Approach: POA)
p.297	下 2 行目	そのデータ を 関連する～	そのデータ に 関連する～
p.299	6 行目	その クラス が 自身 が持つ属性を～	その クラス 自身 が持つ属性を～
p.301	(3) 項番	(3) ポリモフィズム	(4) ポリモフィズム
p.308	(ウ) 項番	(ウ) コメント	(エ) コメント
	(3) 説明文 1～2 行目	ソフトウェアコードの作成プロセスでは、コードレビュー、 単体テスト が 実施 される。 その評価を実施するが、そのための評価基準を決定する。	ソフトウェアコードの作成プロセスでは、コードレビュー、 単体テスト を 実施 し、 その評価を行う。

(2019.04.09)

以 上